

## 部門賞 受賞者の紹介



### 環境工学部門功績賞を 受賞して

田中 俊光  
成蹊大学

この度は、受賞の榮譽を賜りましてありがとうございました。大変光榮に存じます。部門が発足したのは1990年ですが、その2年後に部門運営委員として第一技術委員会に参加させて頂いて以来、部門の多くの皆様方からご指導を受けて参りました。2004年度の部門長を拝命しました当時は、より多くの方々に環境工学シンポジウムに参加頂こうと関係者で協議を重ね、従前の川崎の産業振興会館から出て前年度部門長に道筋をつけて頂きました品川の東京海洋大学にて開

催し、参加者数の増加につなげることができました。更に2005年度には、故伊藤定祐先生（同年度部門長）のお骨折りにより室蘭工大での開催が実現され、大変盛況となりました。なお英文ジャーナル発刊の実現性についての議論を開始し、これも故伊藤先生が発刊の運びへと進めて下さいました。ただ大変残念なことに、伊藤先生はその後体調を崩されて御他界されました。暖かくかつ強力なご支援や推進力を發揮されました先生のことを決して忘れることはできません。

ところで、部門の意義として、快適環境の追求と環境保全を発足時に初代部門長が挙げておられます。それらの重要性はその後増大の一途であり、本部門の果たすべき役割はこれまで以上に大きくなっていると考えます。諸先輩の先見性へ敬意を表するとともに、皆様の更なるご活躍をお祈り致しまして、受賞の御礼とさせていただきます。



### 環境工学部門研究業績賞を 受賞して

東 之弘  
いわき明星大学科学技術学部

この度は、たいへん榮譽ある環境工学部門研究業績賞（2010年度）を賜り、心から御礼申し上げます。授賞の対象に選んでいただいた研究は、「低GWP冷

媒の熱物性計測」に関するもので、今まさにタイムリーな研究テーマと考えています。1980年代に、オゾン層破壊が地球環境問題として深刻化し、ODP（オゾン破壊係数）がゼロの冷媒開発が進みました。そして新しいHFC系冷媒が普及してきたのですが、今ではこのHFC系冷媒も、地球温暖化問題の側面から改善を余儀なくされています。ODPがゼロ、GWP（地球温暖化係数）もゼロが環境問題の視点から理想の冷媒になるのですが、性能の維持・向上を目指す、環境に適した熱物性が重要となるため、未だ画期的な新冷

媒の登場がなされていないようです。

我々の受賞に関しては、タイムリーという言葉がキーワードでした。環境問題の解決が重要視されているこの時期に、体系的に、かつ共同研究という手法を使い、ハイスピードで研究成果を公表できたことが、最も評価を受けた要因かと推察しております。環境工

学部門におかれましては、地球の未来を考えた、さまざまな研究が今後も進められていくことでしょう。今回の受賞を励みとして、我々もさらに研究活動に邁進し、未来の地球環境に貢献できる成果を公表し続けていければと考えています。この度は本当にありがとうございました。



## 環境工学部門技術業績賞を受賞して

大久保 雅章  
大阪府立大学

技術業績賞を受けることになり、誠に名誉なことで、関係各位に深く感謝申し上げます。受賞技術は「プラズマ複合排ガス処理に基づくスーパークリーンディーゼルエンジン及びバイオ燃料燃焼ボイラーの開発」です。当該成果は2006年度に科学技術振興機構の地域イノベーション事業の補助を受け、企業との共同開発を開始し、本年度完了するプログラムによるものです。五年あまりの開発期間の中での進捗は山あり谷あり

で、さらには日常業務で日々時間が細切れに分断されるなか開発を進め、NOx 排出濃度 1ppm 以下またはバイオ燃料を完全燃焼させ CO<sub>2</sub> を 50%削減できるクリーンボイラシステムを2011年度初頭に共同研究企業が市場に投入予定です。今回の受賞において、教育機関に勤める筆者が「研究」ではなく「技術」を評価されたことは、特別に意義のあることと思っております。研究開発の手順をほとんど知らない学生を育てながら学位論文をまとめさせ、企業に就職する姿を見つ、実用化開発を行うのは本当にやりがいのある仕事です。最後になりましたが本技術の開発には大阪府立大学の学生を初めとする若手あるいは熟年の研究者が深く関わってくれており、あらためて感謝し、彼らの努力に報いるためにも開発したシステムの広い普及を願っております。